

日本ナイル・エチオピア学会
高島賞

第 20 回高島賞 審査結果報告

受賞対象論文

Sayuri Yoshida

**The Struggle against Social Discrimination:
Petitions by the Manjo in the Kafa and Sheka Zones of Southwest Ethiopia.**

Nilo-Ethiopian Studies 18, pp.1-19, 2013.

(参考論文)

吉田早悠里

『忌避関係から「差別」へ

—エチオピア南西部・カファ社会におけるカファとマンジョの関係史から』

(2011 年度名古屋大学大学院文学研究科学学位申請論文)

講評

吉田氏の上記の論文について、選考委員会は本年度の高島賞受賞にふさわしいと判断した。その理由を以下に述べる。

受賞対象論文は、南部諸民族州に居住するマイノリティ集団であるマンジョが、エチオピア政府に対して開始した独自の民族集団としての認定請求と、それに伴う権利獲得のための請願運動を扱ったものである。吉田氏はこの論文において、マンジョと対象地域のマジョリティ集団であるカファとの関係に焦点をあて、マンジョが請願運動を開始した理由を、隣接する民族の権利請願運動からの影響や運動を牽引したマンジョの教育水準の高さ等の点から明らかにしている。

この論文で評価すべき点は、「差別」という概念が、いかにしてこの地域に持ち込まれ、それがマンジョとカファとの関係を概念化する際に、誰によってどのような目的で使用され、それがどのような政治的な結果を生み出しているのかを、徹底して実証的に明らかにしようとした点にある。これは、吉田氏の長期にわたる粘り強い現地調査によって可能になったものである。マンジョとカファとの社会関係についての認識が、儀礼的な階層関係から、社会的な差別・被差別関係へと転換する契機や、NGO などの外部アクターが「差別」という概念を用いてこの社会関係に介入するありさま、そしてマンジョの一部がこの概念を受容したうえで、それを「民族」としての権利獲得運動に接続していくプロセスを、説得力をもって描いている。



参考論文の博士学位論文『忌避関係から「差別」へ エチオピア南西部・カファ社会におけるカファとマンジョの関係史から』は、受賞対象論文の内容を細部にわたって掘り下げたものである。この論文では、カファ王国時代からエチオピア帝政期、デルグ時代を経て今日の EPRDF 政権にいたるまで、対象地域の政治・社会の変遷を復原し、それがマンジョとカファとの関係にどのような影響を及ぼしたのかを丹念にたどっている。こうして明らかにされた両集団の関係の歴史は、民族誌的・社会史的資料の乏しい同地域において極めて高い学術的価値を持つ。論文においてなされている分析は、いずれも吉田氏自身の収集した一次資料に基づいており、マンジョとカファとの関係の転換と、「差別」概念の社会的な使用の実態を、人びとの肉声に基づいて豊かに記述している。

こうした、歴史的な視野をも含んだ関係性の記述は、1990 年代以降に民族の自己決定政策が取り入れられたエチオピアの、将来的な社会の安定性を模索する上で貴重な示唆を含んでいると考えられるが、他方で、吉田氏の研究がディテールの追究に労力を割きすぎているあまり、理論的あるいは実践的な展望につながる点も否めない。上述したように、対象論文は見事な民族誌的事実の蓄積によってその記述の力を得ているが、論文のそこそこに散りばめられているはずのヒントが、実際にはどのような展開をなし得るのかについてはあまり明らかではない。テーマが現代的であるからこそ、今後の吉田氏にはさらなる理論的な発展を期待したい。

吉田氏の研究成果は、エチオピア地域研究としても、また人類学研究としても、重要な学術的貢献をなしており、高島賞の受賞にふさわしいと考える。選考委員会は全員一致で吉田氏の論文をナイル・エチオピア地域における学術研究に大きな貢献をもたらした業績であると評価し、2014 年度高島賞に値すると判断した。

2014 年 4 月 19 日

選考委員会

(委員長) 佐藤 廉也

田川 玄

増田 研